

失恋

よろこびの時は火花のように短いのに
苦しみの時は嵐の夜のように長い

あなたはいつてしまった

小暗い三月のぬか雨のなかを

私の胸に嵐をのこしたまま

私は帰ってきた

小雨に沈む東京の西の端へ

ざわめく森の底知れぬ暗さの道を

還らぬ人の名を呼びながら

私は雨のなかで飯を炊いた

私は雨のなかで魚を焼いた

私は涙のなかで飯を食べた

私は涙をぬぐってお茶をすすった

そして私はいま出発する

この美しき悲惨から

(一九五三・三)